

平成25年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	佐賀県立鹿島実業高等学校		
2 所在地	鹿島市大字高津原539		
3 校長名	徳永 清成		
4 学級数	9学級	5 実施学年	1年
児童生徒数	353人	児童生徒数	40人

6 取組のねらい

普段の生活の中で特に不便を感じることはない生徒たちに、障害のある方々の気持ちに気付くことを目的に、どのようなことに不便を感じるのか、自分たちができることは何かを実体験を通して考えさせる。また、実生活の中においても自然と気付き行動することができるようにユニバーサルデザインやバリアフリーについて考えさせる。

7 取組の実際

地元の障害者支援施設の協力を得て、初めに施設の方よりユニバーサルデザインやバリアフリーについてのお話をいただき、40名を10名1グループに分け、4台の車椅子を使って実際に乗って自分で動かしたり、平面だけでなく段差を体験したり、また二人一組になって介助する側と介助される側の体験を行ったりした。

実際に車椅子を使ってみて、車椅子利用者の普段の生活の中でどのように不便さを感じるのか、一人で困難なときは周りの協力を得て生活をしなければいけないことに気付かせるために、小さな段差や高さがある段差の昇り降りの体験をさせた。

その後の学習の中で、誰もが生活をする中でどのようなものがあったら便利かと思えるようなユニバーサルデザインの商品開発を行った。自分たちが使いやすいものはもちろん、高齢者や手が不自由な方を対象に考えたはさみや目覚まし時計などのアイデアが出た。



8 取組の成果と課題

車椅子体験中、最初は声掛けをすることに抵抗がある生徒もいたが、実際に車椅子を使用することによって小さな段差でも恐怖と感ずることや恐怖に感ずるからこそ声掛けの大切さに気付く生徒が多くいた。車椅子を利用する方にとって、周りの協力を得ることは必要不可欠であるが、信頼関係が築けないと車椅子利用者が周りの人や介助者に対して身を任せることはできない。だからこそ、周りにいる人が気付いて声掛けをすることがとても大事であると体感していた。

ユニバーサルデザインの商品開発では、車椅子の体験後ということもあり、その人の立場に立つという視点で考えることができていた。今回は十分な時間が確保できなかったため、もう少し計画的に時間の確保をしていきたい。